防災を調べよう　学ぼう

気象庁 気象科学館

気象情報や防災のしくみを知り、災害から身を守る方法を知ることができる。アメダスや気象レーダー、地震計、気象ロケットなど、実際の機械も展示している。

❶震度計
震度を測る機械　自分で台をゆらして震度を実感できる。
❷津波シミュレーター
模擬津波を発生させて、津波のしくみを学べる。
❸竜巻発生装置
竜巻を発生させる人気の装置「たつのすけ」

●所 在 地：東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁1F
●東京メトロ東西線竹橋駅4番出口から徒歩1分　●JR東京駅　丸の内北口出口から徒歩20分
●東京メトロ千代田線・半蔵門線・丸ノ内線、都営三田線大手町駅C2b番出口から徒歩5分
●T　E　L：03-3212-8341　●開館時間：10:00 ～ 16:00　●入館料：無料　●休館日：日曜・祝日(土曜の場合開館)・年末年始
●ホームページ：http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/kagakukan.html

そなエリア東京(東京臨海広域防災公園)

災害発生時に災害対策活動に利用される「基幹的広域防災拠点」となる東京臨海広域防災公園　その公園内にある体験学習施設である。

❶防災体験ゾーン
地震発生後の 72 時間をどう生き残るのか。首都直下地震の発災から避難まで、生き抜く知恵を学ぶ東京直下 72hTOUR が体験できる。
❷防災学習ゾーン
首都直下地震をわかりやすく学習できる情報ラウンジ、世界の防災用品や防災ゲームが展示される防災ギャラリー映像ホールではアニメ「東京マグニチュード 8.0　～東京直下 72h ～」を上映している。また、見学窓からは防災拠点として使われるオペレーションルームを見ることもできる。

●所 在 地：東京都江東区有明３丁目　●りんかい線 国際展示場駅から徒歩4分　●ゆりかもめ 有明駅から徒歩2分
●T　E　L：03-3529-2180　●開館時間：9:30 ～ 17:00（入場は16:30まで）
●入 館 料：無料　●休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)
●ホームページ：http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/tokyorinkai/

東京消防庁 本所防災館

いざというときに備えて防災行動力を身に付けるための防災体験館　模擬災害を体験できるツアーに参加すると修了証がもらえる。

❶地震体験コーナー
阪神淡路大震災や関東大震災など、震度 7 までの地震を体感
❷暴風雨体験コーナー
強風や大雨のすさまじさを体験できる。
❸煙体験コーナー
訓練用の煙が充満した体験室で、正しい避難の仕方が学べる。

●所 在 地：東京都墨田区横川4-6-6 本所消防署内　●都営バス都08・錦37系統「横川3丁目」下車徒歩約3分　●JR総武線、東京メトロ半蔵門線錦糸町駅から徒歩10分　●京成押上線、都営浅草線、東武伊勢崎線、東京メトロ半蔵門線押上駅B1出口から徒歩約10分
●T　E　L：03-3621-0119　●開館時間：9:00 ～ 17:00　●入館料：無料　●休館日：水曜・第3木曜(祝日の場合翌日)・年末年始
●ホームページ：http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-hjbskan/

感じよう

社 理 総

品川区　しながわ防災体験館

屋内で実際に放水することのできる初期消火体験や防災に関する映像を上映するシアター等で、災害時の正しい知識や技術の習得と防災意識の向上を図ることができる体験施設

❶初期消火体験
消火器や、路上にある消火栓に直接接続して放水するスタンドパイプ、ビルなどにある屋内消火栓を使った消火体験
❷シアター／ワークショップルーム
防災に関する映像の上映や、ワークショップを実施
❸避難姿勢体験
火災で煙に巻き込まれないための正しい姿勢の体験

●所 在 地：東京都品川区広町2-1-36 品川区役所 防災センター２Ｆ
●東急大井町線下神明駅から徒歩5 分　●ＪＲ京浜東北線、東急大井町線、りんかい線大井町駅から徒歩8分
●Ｔ　Ｅ　Ｌ：03-5742-9098　●開館時間：9:00 ～ 17:00　●入館料：無料　●休館日：月曜･土曜･祝日･年末年始
●ホームページ：http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/hp/menu000027700/hpg000027669.htm

伊豆大島火山博物館（いずおおしま）

世界でも珍（めずら）しい火山専門（せんもん）の博物館　三原（みはら）山をはじめ、世界の火山について学ぶことができる。

❶展示室
火山最前線、世界の火山紀行、火山の百科などの様々な展示
❷映像ホール
大島の美しい自然と人々の生活の様子を、迫力あるワイドスコープ映画で上映
❸シミュレータカプセル
カプセルに乗って、火山地底を探検！ 約７分間の旅

●所 在 地：東京都大島町元町字神田屋敷617　●元町港から大島バス波浮港経由セミナー入口行き約5分「火山博物館前」バス停下車
●Ｔ　Ｅ　Ｌ：04992-2-4103　●開館時間：9:00 ～ 17:00（入館は16:30まで）
●入 館 料：一般500円･小中学生250円･一般団体400円･小中学生（がくせい）団体200円
●休 館 日：年中無休（機器等の保守点検のため、年間10日間の臨時休館あり）
●ホームページ：http://www.town.oshima.tokyo.jp/highlight/kazan.html

●東京消防庁 立川防災館【所在地】東京都立川市泉町1156-1　TEL：042-521-1119

●東京消防庁 池袋防災館【所在地】東京都豊島区西池袋2-37-8 池袋消防署内　TEL：03-3590-6565

●東京消防庁 消防博物館【所在地】東京都新宿区四谷3-10 四谷消防署内　TEL：03-3353-9119

●東京都震災復興記念館（しんさいふっこうきねんかん）【所在地】東京都墨田区横網2-3-25（横網町公園内）TEL：03-3622-1208

●東京都江戸東京博物館【所在地】東京都墨田区横網1-4-1　TEL：03-3626-9974

明日へ　自分のまちの防災対策を調べてみよう　社 総

東京都では、東日本大震災の教訓を踏まえ、今後の東京の防災対策の方向性と具体的な取り組みを示すため、平成 23 年（2011）11 月に「東京都防災対応指針」、平成 24 年（2012）11 月に「東京都地域防災計画」を策定しました。

東京の防災対策の目的は、「都民の生命を守ること」と、「都市の機能を維持すること」です。それぞれの区市町村でも、地域の災害を防ぐために、さまざまな対策がとられています。

みなさんのまちでは、どのような防災対策が行われているのでしょうか。家族に聞いたり、役所のホームページや広報誌などで調べたりしてみましょう。

例えば

●自分のまちの防災訓練は、いつ、どのような内容で行われているか、今年の防災訓練を例に調べてみましょう。

●自分のまちの防災マップを調べてみましょう。

大災害を想定した、東京消防庁の防災訓練

防災トピック

みんなのために　～ 3.11　中・高生の活躍～

東日本大震災当日、都立高校８校（工芸高等学校、竹台高等学校、浅草高等学校、三田高等学校、芝商業高等学校、本所高等学校、第一商業高等学校、戸山高等学校）の高校生 356 人は、自らも帰宅困難な状況となりながら、自校に集まった都民等のために、ボランティア活動に取り組みました。

高校生たちは、毛布やマット、飲料水を配布したり、食事の用意や配膳をしたりするなど、自分たちができることを行いました。

国道15号、品川駅付近（午後7時15分）を歩くたくさんの帰宅困難者

また、区立中学校４校（港区立港陽中学校、新宿区立新宿中学校、杉並区立高円寺中学校、北区立明桜中学校）でも、中学生が備蓄倉庫から毛布等を運び出したり、炊き出しの補助をしたりしました。

● 参考文献・資料 ●

参考図書　「天災と国防」寺田寅彦　経済往来　　「評解　小倉百人一首〈増訂版〉」京都書房
新日本古典文学体系「平家物語」岩波書店　　雑誌「近代消防」近代消防社　平成 17 年～ 23 年
「ビジュアル版　幸せを運ぼう」「ビジュアル版　幸せを運ぼう」制作委員会
「平成 23 年度版　防災白書」 内閣府
阪神淡路大震災ノート「語り継ぎたい。命の尊さ」〈新版〉住田功一　学びリンク
「言葉の力」猪瀬直樹　中公新書ラクレ　　「理科年表」平成 23 年・机上版　国立天文台　丸善

官公庁関係　「首都直下地震による東京の被害想定」東京都防災会議地震部会
「東京都地域防災計画」東京都防災会議　「みんなの防災ガイドブック」東京都
「東京都防災対応指針」東京都　「私たちの東京を地震から守ろう」東京都
「東京都の防災対策の手引き～首都東京が直面する危機への備え」東京都
平成 24 年度版「地震と安全」東京都教育委員会　「学校危機管理マニュアル」東京都教育委員会
高等学校「保健」補助教材「災害の発生と安全・健康 ～ 3・11 を忘れない～」東京都教育委員会
「中央防災会議 1896 明治三陸地震津波報告書」内閣府　「防災４８」総務省消防庁

ホームページ　文部科学省「日本の地震活動」「地震発生のメカニズムを探る」 東京都「東京都防災ホームページ」
東京消防庁「東日本大震災関連ページ・救急アドバイス」 伊豆大島火山博物館ホームページ
品川区防災センターホームページ　東京臨海広域防災公園ホームページ
海上保安庁「東日本大震災関連ページ」 国土交通省「台風による被害ページ・水害関連ホームページ」
気象庁「気象科学館・台風被害・火山被害ページ　平成 21 年３月」 警視庁「東日本大震災関連ホームページ」
内閣府「防災情報のページ」「稲むらの火の館」ホームページ　msn 産経ニュース
総務省消防庁ホームページ　総務省一般戦災ホームページ　警察庁「東日本大震災情報ページ」

監　　修　東京大学名誉教授　　阿部　勝征
危機管理教育研究所代表　国崎　信江

制作協力　朝日新聞社　阿部和夫（元宮城県石巻市教育委員会教育長）　石黒敬章　石巻日々新聞社
稲むらの火の館　岩手県教育委員会　岩手県陸前高田市教育委員会　岩手県陸前高田市立米崎小学校
岩波書店　江戸川区立船堀小学校　大田区　海上保安庁　鎌倉虚子立子記念館　鎌倉市観光協会
気象庁気象科学館　気象庁東京管区気象台　共同通信社　近代消防社　警視庁　講談社
江東区立枝川小学校　高徳院　神戸新聞社　国土交通省　国土交通省利根川上流事務所
澤井史郎（福島県いわき市立湯本第二中学校長）　産経新聞社　杉並区立杉並第七小学校
鈴木洋子（前宮城県石巻市立門脇小学校長）　台東区立下町風俗資料館　台東区立中央図書館
中央区立泰明小学校　中日新聞社東京新聞　筑波大学付属図書館　東海新報社　東京消防庁
東京消防庁立川防災館　東京都江戸東京博物館　東京都大島町観光商工課
東京都学校防災教育推進委員会　東京都震災復興記念館　東京都水道局　東京都総務局総合防災部
内閣府　日本経済新聞社　日本清涼飲料工業会　福島県いわき市教育委員会
福島県いわき市立高久小学校　福島県いわき市立久之浜第一小学校　文藝春秋社　防衛省　毎日新聞社
宮城県観光課　宮城県気仙沼市教育委員会　宮城県東松島市教育委員会　宮城県東松島市立大曲小学校
宮城県東松島市立宮戸小学校　三宅村教育委員会　弥生美術館　湯島天神　読売新聞社
和歌山県観光課　和歌山県広川町教育委員会　新宿区立花園小学校
※制作協力には図版・写真提供を含む。

なお、東京都教育委員会においては、次の者が本書の作成に当たった。
教育庁指導部指導企画課長　出張　吉訓
教育庁指導部主任指導主事　石田　周
教育庁指導部指導企画課統括指導主事　熊谷　恵子
教育庁指導部指導企画課課務担当係長　西脇　良和
教育庁指導部指導企画課指導主事　千葉かおり
（所属は平成 25 年３月 31 日現在のものである。）

〈平成 29 年度担当〉
教育庁指導部主任指導主事　藤江　敏郎
教育庁指導部指導企画課統括指導主事　大村　賢治
教育庁指導部指導企画課課長代理（課務担当）　会田　健太郎
教育庁指導部指導企画課指導主事　中村　伸也

防災教育補助教材
小学校版「3.11 を忘れない」（平成 29 年度）

東京都教育委員会印刷物登録
平成 29 年度　第 49 号
（東京都教育委員会主要刊行物）

初版発行　平成 24 年　1 月 20 日
新版発行　平成 24 年　12 月 20 日
印　　刷　平成 29 年　8 月 10 日

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　〒 163-8001　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
東京都庁第一本庁舎 38 階
電話番号　03-5320-6836
編集協力　宮嶋印刷株式会社
印　　刷　宮嶋印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
石油系溶剤を含まないインキを使用しています。

本書の内容について許可なく転載・複製することを禁じる。

復興に向けて・・・

被災地から、東京都の小学生にメッセージをいただきました。

これからの自分

３月11日に起こった大地震と大津波。それから約五か月の間に、私はいろいろなことを体験し、さまざまなことを学んだ。特に実感したことは、人と支え合うということだ。

震災後の約一か月間は、近所の人達との支え合いが大きかった。私の家は高台にあり、津波の被害からまぬがれたものの、車が流された。親せきの家は、半分が流された。水も電気もない。電話も通じなかった。すべてのお店も流され、買い物もできない。そんな中で、近所同士がお米や野菜を出し合って食べることができた。ガソリンを分け合ったり、車を貸してくれた。車を借りたおかげで、親せきの人たちが無事なことを確かめ、どこに避難しているかが分かった。父と母は、車を貸してくれた人に、何度もお礼を言っていた。いつも普通に食べていた、牛乳や卵など手に入らない。となりに住んでいるおばさんが、「いただき物の牛乳だけど、どうぞ。」と言って、一本の牛乳を分けてくれた。温めて飲んだ牛乳は、本当においしかった。また、「子どもたちが先にどうぞ。」とお風呂を準備してくれた近所の人もいた。久しぶりのお風呂は、本当に気持ち良かった。祖母は、「本当に助かる。」と、しみじみ話していた。

ある日、自衛隊の人が家に来て、「小学校を卒業する男のお子さんがいると聞いてきました。ランドセルと、学校の運動着をゆずってくれませんか。」と、母に話していた。母はすぐに、「大丈夫です。どうにかなりそうです。」と返事はしたものの、「二年生が使うには、古すぎるね。」と言って、知り合いに声をかけ、兄のランドセルよりきれいな物を届けた。

自衛隊の人は、とても喜び、大事に持ち帰った。大切に物を使うということは、何度も使うことができる。私のランドセルがこわれた時、姉の物を使った。自分の物が人の役に立つことは本当に嬉しい。

震災後、ようやく学校に行けるようになってからのこと。私達は、たくさんの支援物資を受け取った。地域に届く物資。学校に届く物資。食品、衣類、学用品、生活用品などたくさんいただいた。真新しいノートや鉛筆。本当におどろいた。とても嬉しかった。「毎日のように、たくさんいただいて本当にいいのかな。」などと、友達と話したこともある。

先生から、「全国の人達が、送ってくださった物資です。感謝して使ってください。」と話があった。物資の中に「がんばってください。応援しています。つらいのはあなただけじゃないよ。」といったメッセージカードもそえられていた。優しい字。胸が熱くなった。

暑い中でも、雨の中でも、がれきをかたづけようと日本中の人達が来てくれている。みんなボランティアの人達だ。町は少しずつきれいになっている。日本ばかりではない。アメリカやカナダからも小学校を訪れ、私達をはげましてくれた。

今の自分には、支援を受けたことに対して、お礼の手紙を書くことぐらいしかできない。いつかは、自分も人を支えることができる人間になりたい。それがたくさんの支援を受けてきた私のお返しだ。人を支えていくということ、自分の目標を持つということ。これからは、自分の目標に向かってがんばっていきたい。

岩手県陸前高田市立米崎小学校　５年　佐々木　恵利佳

１０年後の宮戸島

東日本大震災で、私たちの住む東松島市の宮戸島は、多くの家々や浜が津波で流されました。この震災に負けず、未来に向かってがんばるために、「１０年後の宮戸島の風景」を、全校児童２９人、一人一人が画用紙に描きました。

一人一人が描いた１０年後の宮戸島の絵を、似た風景ごとにグループを作って話し合い、ベニヤ板４枚分の壁画にしたのがこの絵です。

大きな壁画を作っていく活動は、私たち小学生にできる宮戸島復興の活動そのものだと思っています。全校で絵を描いて、気持ちが一つになりました。この絵は、震災に負けない宮戸小の気持ちなので、たくさんの人に見てもらいたいです。

宮城県東松島市立宮戸小学校　児童一同

人と人との関係

ぼくは、3月11日の津波で、ぼくの大切な野球の道具などを多く失いました。

地震や津波は危険なものです。家族を失った人たちもいます。

でも、みんなで力を合わせて、人を助けることで、人と人との関係ができていくことがわかりました。祖母の知り合いは、自分も被災しているのに、支援物資を送ってきてくれました。

人と人との関係があってこそ、3月11日の地震や津波を乗り越えてこられたのだと思います。

地震や津波で、よくないことがあったけれど、そのおかげでぼくは、助けられてばかりだったことに気付きました。だから、これからは、困っている人に手をさしのべていこうと思いました。

福島県いわき市立久之浜第一小学校　６年　菜花　友紀

東京都教育委員会

立　　学校

５年	組	番	氏名
６年	組	番	